

メッセージアウトライン ヨハネ19：17~24「十字架上のイエス」

「彼らはイエスを受け取った」(17) 裁判の席でユダヤ人たちの激しい圧力に負けて、ついに総督ピラトはイエスを十字架につけるためにユダヤ人たちに引き渡した。イエスはご自分で十字架を背負って「どくろの地」という刑場へ出て行かれた。

「彼らはそこでイエスを十字架につけた」(18) イエスが真中で他の二人の犯罪人が右と左であった。ここにおいてイエスは全人類の罪を背負われるのである。そして「ユダヤ人の王ナザレ人イエス」との罪状書きがイエスの十字架の上に掲げられた。(19) それは「ヘブル語、ラテン語、ギリシャ語」で書かれていた。(20) ヘブル語はユダヤ人の国語、ラテン語はローマ政府及びその国民の国語、ギリシャ語は当時の世界一般に通用する国際語であった。つまりどこの国の人でも、そこに書いてあることは理解できたのである。これも神のみこころであり、イエスはまことにユダヤ人の王として死なれるのである。ユダヤ人の王とはすなわち神のことである。→詩篇47:6他

ユダヤ人たちは「ユダヤ人の王と自称した」と書いてくださいと抗議したが(21)ピラトは頑として譲らず、突っぱねる。(22) 彼は重大なことについては譲歩し、枝葉のことについては執着した人物として歴史に名をとどめなければならなかった。私たちはどうだろう。

イエスを十字架につけたローマ兵たちはイエスの着物を分け合い、最後の下着はくじ引きとした。(23,24) ここにおいて聖書の預言がまた成就することとなったのである。→詩篇22:18

十字架上のイエスは人類を罪から贖う大祭司としての務めを果たされるのである。→ヘブル7:24~28,10:14 しかし、十字架の下のローマの兵士たちは十字架を見上げもせず、役得だと言って衣服を分け合い、下着までもくじ引きにしている。彼らは目の前のちょっとした利益に夢中で、自分たちの永遠の運命に関わる霊的なことには全く無関心、無頓着なのである。これが人間の現実の姿で、このように私たち人間は霊的な暗黒の中にあるのである。

私たちのために苦難を受け、私たちのためにむち打たれ、はずかしめられ、私たちのために十字架につけられ、そのようにして私たちを本来受けるべき神のさばき、死と滅びから贖ってくださったイエス。

ピラトは罪状書きを皮肉で書いたかもしれないが、この方こそまことにユダヤ人ばかりではなく、すべての人の王、主イエス・キリストなのである。

私たちはローマの兵士たちのように十字架の下でこの世のことに夢中になるのではなく、信仰を持って十字架を見上げて、私たちの王、救い主イエス・キリストに心からの感謝と賛美をささげ、これほどまでに私たちを愛してくださった神の愛をおぼえ、その愛にこたえる者になっていきたい。そのためにも助け主である聖霊の力で満たしていただく。